３　工事完成図書作成要領

目　　次

第１節　適　用 …… 3－1
第２節　図書の種類、部数 …… 3－1
第３節　完了図の作成 …… 3－1
第４節　縮小版の作成 …… 3－7
第５節　図面集 …… 3－7
第６節　取扱説明書 …… 3－7
第７節　紙による完了図の作成 …… 3－8

工事完成図書作成要領

第１節　適　用

この要領は愛知県企業庁が発注した工事の完了時において請負者が作成し、本県に提出する完了図、縮小版及び取扱説明書等の図書（以下「完成図書」という。）について定める。ただし修繕工事、設計、測量委託、点検委託における報告書、成果品は除くものとする。

第２節　図書の種類、部数

１	完了図(電子データ)	１式
2	縮小版原図	１式
3	図面集	３部
4	取扱説明書	３〃
5	取扱説明書（電子データ）	１式

第３節　完了図の作成

完了図は「愛知県　電子納品運用ガイドライン(案)」に基づき、電子媒体で納品するものとする。ただし､これによることができない場合は第７節により、紙で納品することができる。

１　作成図面

各工事において作成すべき図面は表－１のとおりとする。

表－１

工　　事	図　面　名　称
管　工　事	平面図、縦断図、横断図、構造物図、詳細図、管（特殊）製作図、用地図
水管橋工事	平面図縦断図、横断図、詳細図（構造図、キャンバー図、歩廊、リングサポート、沓等）、橋台、橋脚構造図、配筋図、護岸工図、その他構造物図、用地図
浄水場築造工事	全体平面図、整地土工図、用地図、構造物別平面図、構造図、配筋図、詳細図、場内排水、配管図、場内整備図、フローシート
建　築　工　事	平面図、立面図、建物詳細図、矩計図、伏図、配筋図、建具図、

	設備図
ポンプ設備工事	配置図、配管図、基礎図、ポンプ外形図
薬注設備工事	配置図、断面図、フローシート、詳細図、組立図、配線図、展開図
機械　〃	配置図、断面図、組立図、配線図、展開図
電気　〃	単線結線図、配線図、フロー図、機器構造図、設備配置図、設置線系統図
計装　〃	機器配置図、配線図、フロー図、電線系統図、水質計器等配管図

(1) 平面図

ア　構造物及び管の種類、形状寸法、位置、埋設物は土被り、延長等について記入する。

イ　方向は、「北」を上方に、管路では図面左側を水流の上流とし記入する。

ウ　管種、寸法の記入は文字記号で直管では管路に沿って、正面又は右横から読めるように記入し、異形管等は引き出し線により記入する。バルブはメーカー名、全閉－全開の回転数を記入する

エ　主たる異形管は、その位置をあらかじめ付近の固定物よりオフセットを取り、その距離を記入する。

オ　付近に他の地下埋設物があるときは、その種類、寸法、位置、土被りを記入する。

カ　当該工事の構造物の既設の構造物との関連を明示する。

(2) 縦断図

ア　縦断図は原則として平面図と同一の図面に書き入れる。

イ　縦断図には、管、構造物の縦断状態、異形管等の種類、形状寸法、管の高さ、地盤高、（計画高）土被り、点間距離、追加距離、管勾配等を記入する。

ウ　横断する地下埋設物の断面、種類、寸法を記入する。

エ　土質柱状図のわかる場合は記入する。

(3) 横断図

ア　横断図は、管、構造物の断面、土被り、位置を記入する。

イ　道路断面は、側溝、歩道、法尻、隣接地盤、官民界等を記入する。

ウ　他の地下埋設物の断面、種類、寸法を記入する。

エ　標準横断図は、平面図と同一図に書き入れてもよい。

(4) その他の図面

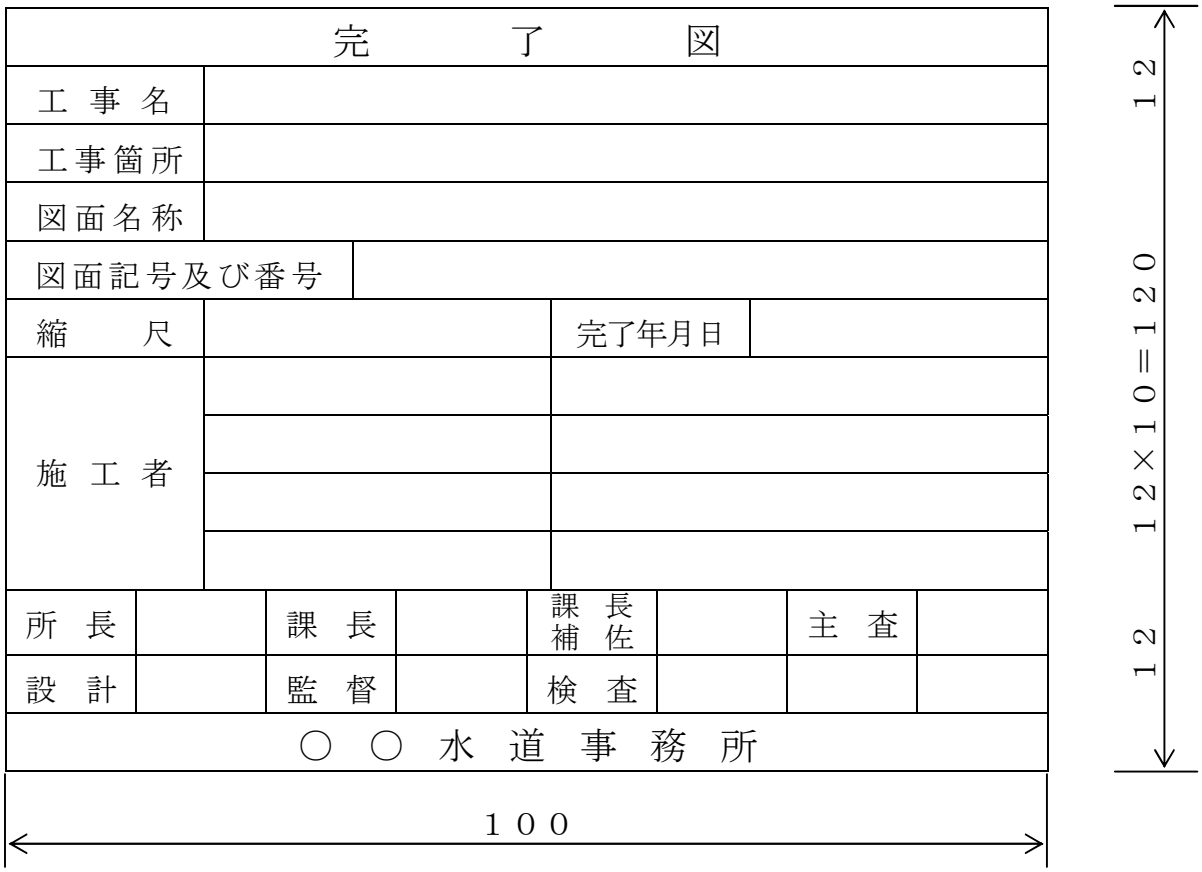
その他の図面は監督員の指示による。

(5) 標題

ア　標題は、図－１の様式で図面右下に記入する。

イ　施工者は築造、布設、設備、管製作接合等、各工事の請負者の他、管類、弁類、特押、ジョイントコート等の資材メーカーも記入する。

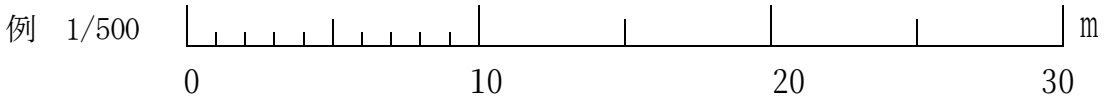
図－１



(6) 縮尺・スケール

ア　縮尺は、表題に記入する他、標題欄の上又は左に図－２の書式でスケール図を記載する。

図－２



イ　縮尺は原則として下記のとおりとする。

平　面　図　１：５００

縦　断　図　タテ　１：１００　ヨコ　１：５００

横　　断　　図　　タテ、ヨコ　１：１００
詳　　細　　図　　１：１００　１：５０　他
構　　造　　図　　１：５０　　１：３０　他
オフセット図　　１：２００～３００

(7) 表示記号

ア　管種及び口径の表示は表－２のとおりとする。

イ　管及び弁類の配管略図は表－３のとおりとする。

ウ　管及び弁類の新設、既設、撤去又は埋設の区分は表－３のとおりとする。

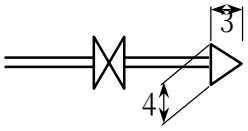
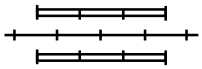
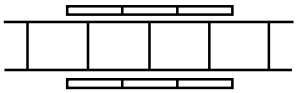
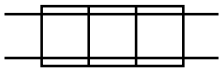
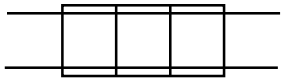
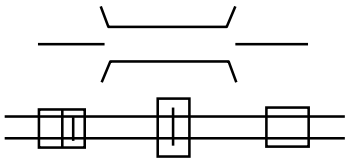
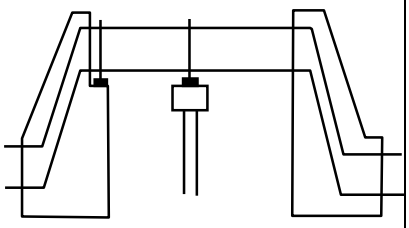
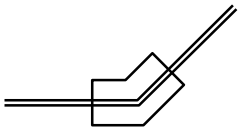
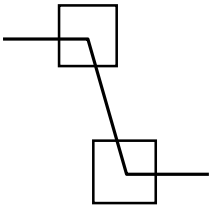
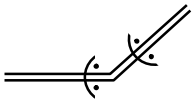
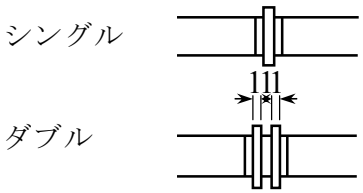
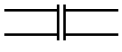
エ　管厚及び塗装仕様の表示は標準のものを図面の始めの管に「標準管厚ｔ＝○○㎜内面○○○外面○○○」と表示し標準と異なる管については各々管厚、内面及び外面の塗装仕様を表示する。

表－２

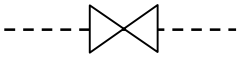
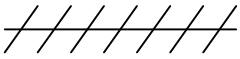
名　　称	表　示　記　号
塗覆装鋼管	ＳＰ　φ○○○
ダクタイル鋳鉄管　Ａ型	ＤＩＰ．Ａ　φ○○○
〃　　Ｋ型	ＤＩＰ．Ｋ　φ○○○
〃　　Ｓ型	ＤＩＰ．Ｓ　φ○○○
〃　　ＳⅡ型	ＤＩＰ．ＳⅡ　φ○○○
〃　　ＮＳ型	ＤＩＰ．ＮＳ　φ○○○
鋳　鉄　管	ＣＩＰ　φ○○○
仕　切　弁	ＳＶ　φ○○○
〃　　(ダクタイル)	ＳＶ－Ｄ　φ○○○
バタフライ弁	ＢＶ　φ○○○
〃　　(鋼板)	ＢＶ－Ｓ　φ○○○
〃　　(ダクタイル)	ＢＶ－Ｄ　φ○○○
空　気　弁　　(単口)	ＡＶ－Ｓ　φ○○
〃　　(双口)	ＡＶ　φ○○
〃　　(急速)	ＡＶ－ＨＳ　φ○○
伸　縮　管　　(ベローズ)	Ｅｘ－Ｂ　φ○○○
〃　　(ビクトリック)	Ｅｘ－Ｖ　φ○○○

表－３　配管略図

構造物		平面図	縦断図
直管	φ800以上	巾 スケールアップ	巾 スケールアップ
直管	φ400～φ700	巾0.5㎜	
直管	φ300以下	巾0.3㎜	
異形管	鋼管	r=5	縦横ケールアップ
異形管	鋳鉄管	4	
仕切弁		3 5	
バタフライ弁	鋼板製		
バタフライ弁	鋳鉄製		
空気弁	単口	5	
空気弁	急速空気弁		
空気弁	双口	3 5	
消火栓	単口	消火栓	
消火栓	双口	消火栓	
片落管		3 4	

構造物	平面図	縦断図
泥吐管		
減圧弁		
逆止弁		
推進管　挿管		
推進管　二重管		
水管橋		
異形管保護工		
特殊押輪		
ベローズ管		
ビクトリック管		
フランジ管		

表－４

区分＼名称	管　　路	制　水　弁	
新　　設			太線又は二重線
既　　設			破　　線
撤　　去 埋　　設			細線に斜線

第４節　縮小版の作成

1　ＣＡＤ図面を縮小してＡ３版（297×420）の縮小版原図を作成する。

2　縮小版原図は、綴穴（30穴）をあけて提出する

第５節　図面集

縮小版より青写真を作成し、綴穴（30穴）をあけて提出する。

第６節　取扱説明書

1　設備工事については、納入した機器の取扱い説明書を提出する。

2　取扱い説明書には、下記のものを付けること。

(1) フロー図、配置図

(2) 構造図、詳細図

(3) 配線図

(4) 取扱い説明

(5) 型録

3　取扱い説明書は、電子データで提出すること。(オリジナルデータ又はPDF形式)

4　製本は、Ａ４版に黒表紙で製本し、金文字で表紙及び背表紙に標題を記入する。

標題例

○○浄水場○○設備工事

平成○○年○○月

施工　：　○○株式会社

第７節　紙による完了図の作成

1　作図

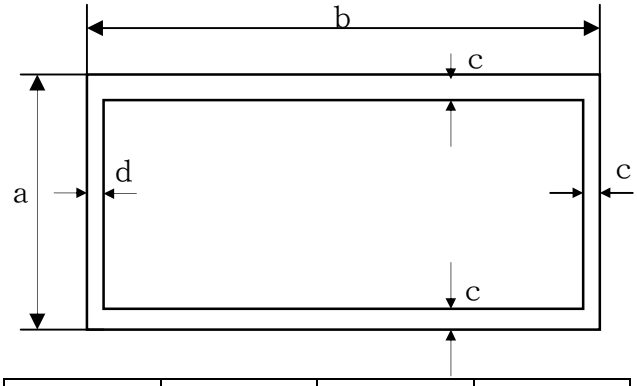
この要領に定めるもののほかは、JIS A 0101「土木製図通則」JIS Z 8302「製図通則」及び土木学会「土木製図基準」による。

2　用紙

(1) 図面の大きさは仕上がり寸法でＡ１版とする。図面輪郭及び余白は図－３のとおり。

(2) 原紙の紙質は、良質、つや消しトレシングペーパーとし、図面の縁はミシン加工又は縁どりテープを施したものとする。

図－３



a	b	c	d
５９４	８４１	２０	４０

3　書入れ

(1) 書入れは原則として墨入れとする。

(2) 文字の大きさ、線の太さ等は表－５のとおりとする。

表－５　　単位：㎜

	文字の種類	文字の高さ	線の太さ	文字間のすきま
鉛筆書きの場合	漢　　字	６．３以上	０．５～０．３	線の太さの２倍以上
	アラビア数字 か　　な ロ　ー　マ　字	４以上		
墨書きの場合	漢字	５以上	０．５～０．２	線の太さの２倍以上
	アラビア数字 か　　な ロ　ー　マ　字	３．２以上		

(3) 寸法の単位は原則として㎜表示とし、これによらないときは、そのつど単位を記入すること。

(4) 設計図をそのまま利用できるものは、設計図を第２原図に撮影して作成することができる。